

平成 28 年度 校内研修計画

平成 28 年 4 月 11 日 (月)

研修担当 矢田 祥吾

1. 教育理念 「自他共栄」
2. 教育目標 「仲間とともに学びあい 支え合って生きる生徒の育成」
3. 研修テーマ

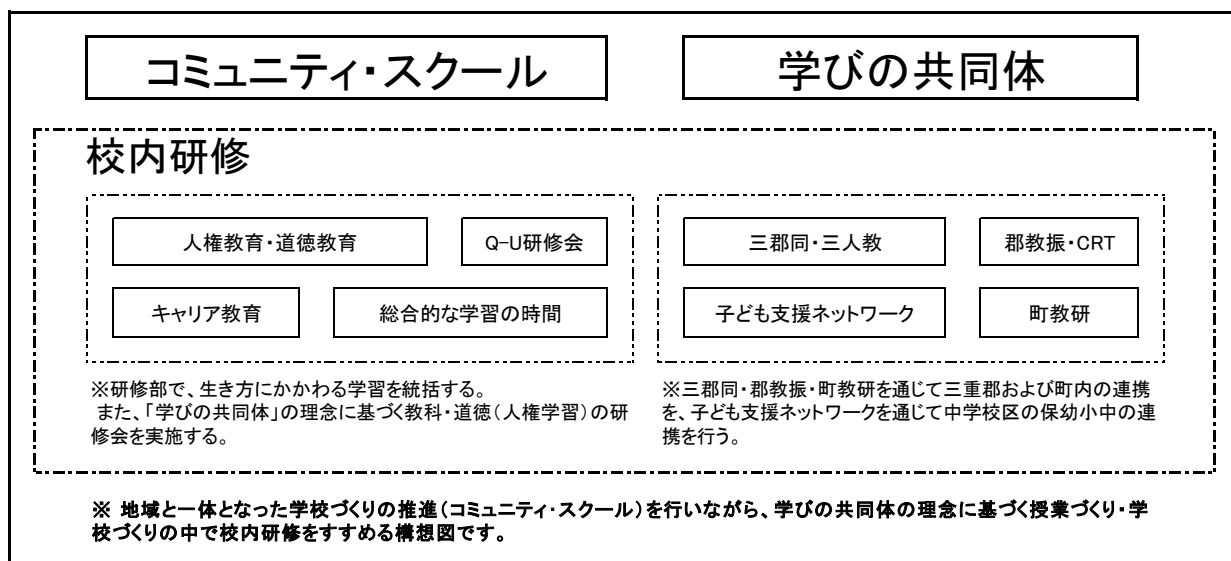
「聴き合い学び合う授業をめざして」一質の高い協同的な学びの創造— (4 年次)

「生徒一人ひとりの学ぶ権利を保障する」ために、教師が主体となった一斉型授業から、生徒が主体である協同的・探求的な「学びの質の高い授業」をめざす。授業を中心としたすべての教育活動を通して、生徒にわかる喜び、学ぶ楽しさを実感させたい。

学校教育目標「仲間とともに学び合い 支え合って生きる生徒の育成」

人権教育目標「互いの存在を認め合い 支え合って生きる生徒の育成」の理念に基づき、生涯にわたって学び続けることができる生徒を育てたい。

4. 研修組織



5-1. 授業(学び)の基本技法

1 時間の展開の中で、①「共有」②「協同」③「探求」の3つの要素を組み込み、一人ひとりの学びを保障する授業をめざします。

①「共有」とは、本時に身につけさせたい基礎的な内容のこと。グループ活動に個人作業の協同化を組織したり、生徒同士の考えをすり合わせるよう仕組んだりすると理解が進む。

※個人作業の協同化…「ひとり学び」の中に“グループの学び”があり、“グループ学び”の中に“ひとり学び”があるを具現化すること。

②「協同」とは、多様な考えをすりあわせることにより、お互いの違いを認め合いながら、自分の考えを深める学びのこと。また、生徒同士のかかわりで、わからない生徒がわかっている生徒にきくことにより、全員が学びに参加することができる。

- ③「探求」とは、グループ活動を通して、生徒一人ひとりが意欲的に“質”の高い課題に取り組むこと。夢中になって取り組むためには、生徒同士がつながっていることが必要不可欠です。普段より学び合うなかまがいる教室を目指します。

5-2. 授業（学び）における「対話」と「協同」

生徒同士の“聴き合う関係”をつくるために、教室の座席配置は「コの字型」と「3, 4人グループ（班）」で構成する。授業における「対話」と「協同」が生まれる環境づくりは大切です。

- ①「コの字型」座席とは、対話的な活動に都合が良い配置です。生徒がお互いに聴き合うことができ、発表している人の顔が見えるという良さもあります。
- ②「3, 4人グループ（班）」とは、探求的な活動に適した机配置です。全員が額を寄せて小さな声で話すことができる環境をつくり、男女混合班を基本とすることで、お互いが支えあう関係をつくります。

なお、英語科の授業ではペア学習とグループ学習を併用したい。また、技能教科や道徳・学活・総合的な学習においても、他者との協同を一次的に考えたい。グループ活動を通して、仲間のよさを認めたり、仲間をケアしたり、場合によっては真似(真似び=学び)をしたりすることで他者と対話し、学ぶことが楽しい授業にしたい。

(※) クラス全体の人数により、どうしても5人による生活班(グループ)ができてしまう場合、授業においては4人以下となるよう工夫する。(別の班(グループ)とくっつけるなど)

なお、2, 3年生の英語と数学の少人数クラスについては、生活班とは別に班をつくるため5人班はつくらない。(例えば36人学級であれば、20人と16人に分けることで4人班をつくりやすくする。) その際、生徒が黒板に対して背を向けないように机の配置も考える。

6. 授業者の役割

①「聴く」・・・授業者の活動の中核

- ・生徒の発言が教材と、どこで結びついているのか、どの部分を言いたいのかを聴く。
- ・他の生徒のどの意見とつながっているかを聴く。
- ・その生徒の前の発言とどうつながっているかを聴く。

②「つなぐ」

- ・教材と生徒をつなぐ。
- ・ある生徒と別の生徒をつなぐ。
- ・ある知識と別の知識をつなぐ。

③「もどす」

- ・生徒のつまずきによっては元にもどってやり直す。
- ・発言が教材のどこでそう思ったのか、考えたのか、教材にもどす。
- ・グループにもどす。

【5, 6については、「中学校における対話と協同」佐藤雅彰・著(ぎょうせい)より多数引用】

7. 研修の内容と計画

①年間4回の公開授業研究会を実施します。(4, 6, 10, 1月)

②全体公開授業とは別に、学年別のビデオ研修を三校合同研修会(8月)および第7回校内研修会(11月)で実施します。

授業者はA4一枚の授業の流れがわかる程度の「授業のデザイン」(裏面に座席表)を用意します。

(“対話” “協同” “探求” で構成された授業展開をデザインするために、事前に同僚と非公式に検討会を行うことが望ましい)

③授業を日常的に見合う取り組みをする。

授業を参観し、デジタルカメラで生徒の学びのようすを撮影する。A4版の“学びのたより” (※) を書き、全職員に配布する。(非常勤の先生にも配布する。)

※ 1~3名の個人またはグループで授業を参観し、学期ごとに1枚発行して交流して下さい。

(3年生担当の先生は、3学期は実施しません。また、グループは学年をまたいでも結構です。)

④全体公開授業は、鈴鹿大学短期大学部の長澤 貴先生、元・紀宝町立井田小学校長の武村俊志先生(ともに学びの共同体スーパーバイザー)を招聘し、助言していただく。

8. 研究協議会の視点

研究協議会では、授業者が「どう教えるべきだったか」ではなく、生徒一人ひとりの学びの事実にもとづいて、

①生徒一人ひとりの学びが保障されていたか。

②自分はその授業から何を学んだか。

この2つを中心に話し合う。互いに尊重し合い、学び合うようにしたい。

9. 実践拠点校視察研修／セミナー・研修会への参加

研修を深めるため、毎年計画的に「学びの共同体」の理念に基づいて授業公開をしている実践校への視察研修を行ったり、セミナーや研修会へ参加をしたりする。学んだことを全体に還流する。

「三重学びのネットワーク」「学びの共同体研究会」と連携・協力関係を築く。

【視察研修計画(予定)】

① 鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校授業研 (6, 11, 1月)

② 鈴鹿市立創徳中学校授業研 (6, 11, 2月)

③ 津市立朝陽中学校授業研 (4, 6, 1, 2月)

④ 尾鷲市立尾鷲中学校授業研 (6, 10, 1月)

⑤ その他、県内および近隣県の実践校の授業研究会にも参加予定

※学校運営上、参加が困難な場合は見送る場合もあります。

【セミナー・研修会参加計画(予定)】※週休日開催については、出張→振休でお願いします。

① 7/28(木)~29(金) 授業づくり・学校づくりセミナー (滋賀県大津市)

② 8月下旬 三重学びのネットワーク夏季研修会 (津市)

③ 12月下旬 三重学びのネットワーク冬季研修会 (松阪市(予定))

④ 1月初旬 学びの共同体研究大会 (静岡県伊東市)

10. 取り組みの検証

①生徒同士が協同的な学び合いをして、生徒が楽しいと感じている授業になっているかどうか。生徒からアンケート(学校教育診断票)をとる。

②CRT検査を1年生から実施して、全国平均と比較する。結果の概要は、学校だよりや学年通信で学校の取り組みとともに、生徒や保護者にも伝える。CRT実施後は実力テストで継続的に検証する。

11. 年間研修計画

月	日	曜日	研 修 計 画	備 考
4	23	土	第1回校内研修会（第1回公開授業研究会） 助言・指導・講演：学習院大学教授 佐藤 学先生 スーパーバイザー：鈴鹿大学短期大学部 長澤 貴先生 ：元・紀宝町立井田小学校長 武村俊志先生	【授業者】 1年：廣瀬 由美（理科） 2年：黒田健太郎（理科） 3年：大矢知正裕（数学）
6	13	月	第2回校内研修会（第2回公開授業研究会） （兼・子ども支援ネットワーク 公開授業研究会） スーパーバイザー：鈴鹿大学短期大学部 長澤 貴先生 ：元・紀宝町立井田小学校長 武村俊志先生	【授業者】 1年D組： 金津 美咲（英語）
8	1	月	第3回校内研修会 午前：Q-U研修会，午後：人権学習にかかわる学年会	
8	9	火	校区コミュニティ・スクール夏季研修会 《竹永小》 （兼・子ども支援ネットワーク夏季研修会）	
8	22	月	第4回校内研修会 《河芸公民館》 （八風中，鼓ヶ浦中，朝陽中 三校合同研修会） 実践校視察報告／セミナー参加報告 ビデオ授業の研究協議 スーパーバイザー：鈴鹿大学短期大学部 長澤 貴先生	【ビデオ授業提供者】 1年：一ツ家 悠（国語） （分科会助言） 松本 章先生（予定） 二村 直司先生（予定）
9	8	木	第5回校内研修会（コミュニティスクールの研修） （講師）	
10	21	金	第6回校内研修会（第3回公開授業研究会） スーパーバイザー ：元・紀宝町立井田小学校長 武村俊志先生	【授業者】 3年 組： 森田 英伍（国語）
11	4	金	第7回校内研修会 Q-U研修会	
11	21	月	第8回校内研修会（道徳・人権学習の研修） 実践校視察報告，ビデオ授業の研究協議	【ビデオ授業提供者】 1年D組：矢田 祥吾 2年B組：林 美弥 3年C組：青山貴美子
1	24	火	第9回校内研修会（第4回公開授業研究会） スーパーバイザー：鈴鹿大学短期大学部 長澤 貴先生 ：元・紀宝町立井田小学校長 武村俊志先生	【授業者】 2年 組： 坪井 朋崇（数学）
3	14	火	第10回校内研修会（1年間の反省・ふり返り） 実践校視察報告／セミナー参加報告 特別支援学級より報告，小中情報交換会の報告 各学年の人権学習の報告 CRTについて（※）など	

※CRTは28年度より3月実施となるため、研修会での扱いは現在のところ未定です。
【研修計画は、4月現在のものです。内容の追加・変更がありましたら更新いたします。】